

# 第3回 交通運輸技術フォーラム

## ～宇宙でつなぐ陸海空の自動運転～

参加費無料

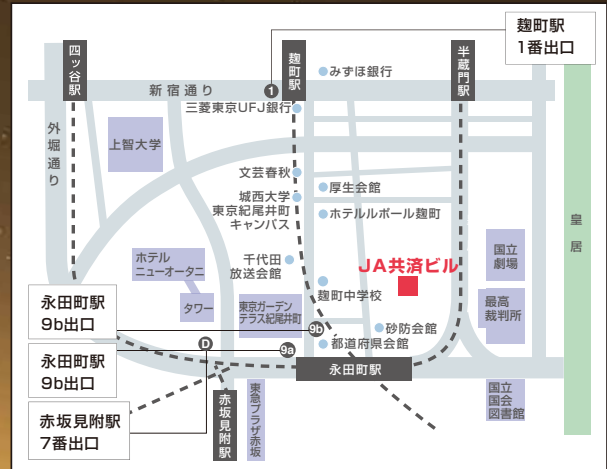
**日時** 平成30年10月17日(水)  
13:00～16:05 12:00開場

**場所** JA共済ビル カンファレンスホール  
(千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル1F)

**定員** 300名  
(事前申込み受付中～10月12日(金)12時まで)  
※受付時の混雑を避けるため、事前登録をお願いしております。  
※定員に達した時点で申込みを締め切らせていただきます。  
※当日会場受付による聴講参加も可能ですが、お席に余裕がない場合、事前登録の方を優先とさせていただきますのでご了承願います。

**主催**  国土交通省

**協力** 内閣府宇宙開発戦略推進事務局、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所



### プログラム

13:00～13:05	<b>主催者挨拶</b>	国土交通省 大臣官房技術総括審議官 増田 博行
13:05～14:45	<b>講演</b>	<p>基調講演 準天頂衛星システムの活用と宇宙政策 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 審議官 行松 泰弘</p> <p>① 無人航空機(ドローン)の利活用のための環境整備 国土交通省航空局安全部安全企画課 企画調整官 徳永 博樹</p> <p>② 自動運航船の実用化に向けた技術開発・環境整備 国土交通省海事局海洋・環境政策課 課長補佐 加藤 訓章</p> <p>③ 自動運航船の衝突回避に係る要素技術 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所海上技術研究所 上席研究員 丹羽 康之</p> <p>④ 我が国港湾のコンテナターミナルの生産性革命 国土交通省港湾局技術企画課技術監理室 課長補佐 川俣 満</p>
14:45～15:05	<b>休憩</b>	パネル展示 コアタイム
15:05～16:05	<b>講演</b>	<p>⑤ 自動運転の実現に向けた環境整備等の取組について 国土交通省自動車局技術政策課 専門官 久保 巧</p> <p>⑥ ダイナミックマップ基盤の整備に向けて ダイナミックマップ基盤株式会社 取締役 柳澤 哲二</p> <p>⑦ 自動車における自動運転技術の動向 トヨタ自動車株式会社東京技術部 担当部長 加藤 昌彦</p>
16:05	<b>閉会</b>	

### 参加申込方法

下記のE-mailアドレス、またはFAX番号にお名前・所属(会社名)・連絡先(E-mail)・複数名ご参加の場合は代表者様以外のお名前を送り下さい。

**E-mail: [hqt-g\\_PLB\\_GAN@ml.mlit.go.jp](mailto:hqt-g_PLB_GAN@ml.mlit.go.jp) FAX: 03-5253-1560**

【お問合せ先】

国土交通省総合政策局技術政策課 交通運輸技術フォーラム担当 TEL:03-5253-8111(内線:25634)



## 第3回 交通運輸技術フォーラム ～宇宙でつなぐ陸海空の自動運転～

### 講演(8課題)

#### 基調講演：準天頂衛星システムの活用と宇宙政策

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 審議官 行松 泰弘

本年11月1日にサービス開始予定の準天頂衛星システム「みちびき」について、衛星測位サービス、測位補強サービス等の提供サービスの概要を紹介するとともに、様々な分野における利活用事例を紹介する。

#### ① 無人航空機(ドローン)の利活用のための環境整備

国土交通省航空局安全部安全企画課 企画調整官 徳永 博樹

無人航空機の安全を確保するための基本的な飛行ルールを定めた改正航空法の概要と、国土交通省航空局が進めている無人航空機の安全な利活用に向けた環境整備の最近の取組状況を概説する。

#### ② 自動運航船の実用化に向けた技術開発・環境整備

国土交通省海事局海洋・環境政策課 課長補佐 加藤 訓章

近年世界的にも関心が集まっている自動運航船に関して、国土交通省海事局の取組の状況を、技術開発事業・実証事業の状況を中心に概説する。

#### ③ 自動運航船の衝突回避に係る要素技術

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所 上席研究員 丹羽 康之

船舶の衝突回避の流れは、他船の検出・動静把握、衝突のおそれの判断、衝突回避方法の決定・実施の流れである。これを自動運航船が行う場合の各要素機能について紹介する。

#### ④ 我が国港湾のコンテナターミナルの生産性革命

国土交通省港湾局技術企画課技術監理室 課長補佐 川俣 満

AIやIoT、自動化技術を組み合わせ、世界最高水準の生産性を有し、労働環境のよいコンテナターミナル(AIターミナル)の実現を図るための取組について、衛星測位技術の活用方策を例に紹介する。

#### ⑤ 自動運転の実現に向けた環境整備等の取組について

国土交通省自動車局技術政策課 専門官 久保 巧

政府目標である2020年目途のレベル3以上の自動運転の実用化に向け、産学官において実施されている様々な取組について、車両の安全基準に係る最近の取組を中心に概説する。

#### ⑥ ダイナミックマップ基盤の整備に向けて

ダイナミックマップ基盤株式会社 取締役 柳澤 哲二

世界的な開発競争が加速する自動運転システムに必要とされる「ダイナミックマップ」の基盤となる、高精度3次元地図データに関する整備状況と今後の事業展開を概説する。

#### ⑦ 自動車における自動運転技術の動向

トヨタ自動車株式会社東京技術部 担当部長 加藤 昌彦

新たなモビリティ社会の創出に向けて、自動運転技術は有効な手段技術として期待されているが、多く技術課題が存在するとともに、社会実装する上での規則・責任等の課題も顕在化している。これら自動運転に関する最新状況とその対応の方向性について紹介する。

### パネル展示(9課題)

研究実施者	課題名
公益財団法人 鉄道総合技術研究所	線路座標を活用する鉄道向け高信頼GNSS測位計算プログラム
国立大学法人 東京大学	ドライバーの体調異常検知手法構築に向けた基礎研究
国立大学法人 九州大学	高圧脱水固化処理工法の開発 — 浚渫土砂を大型ブロックへ —
一般財団法人 日本海事協会	海洋分野の点検におけるドローン技術活用に関する研究
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	安全で効率的な航空機の冬期運航を目指した滑走路雪氷モニタリングシステム技術の開発
三井E&S造船株式会社	自律化船の自律化レベルの検討
東プレ株式会社	新型航空保冷コンテナの保冷システム構築
国立大学法人 神戸大学	人工知能をコア技術とする内航船の操船支援システム開発
株式会社日通総合研究所	機械化技術の採用による点呼の精度向上の研究